

授 業 概 要

(こども保育科)

授業のタイトル(科目名) 保育実習Ⅰ(保育所)	授業の種類 (講義・演習・ 実習)	授業担当者	当該科目に関する 実務経験
		河村 和代	保育士
		野田 和江	保育士
授業の回数	時間数(単位数) 80 時間(2 単位)	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ・ 保育実習は学内で学習した理論を、保育士の仕事に助手的な形で携わることを通して、授業で学んだ内容と実践の統合をはかることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] ・ 実習を通して子どもの生活を理解する。 ・ 実習を通して子どもを取り巻く環境を理解する。 ・ 実習を通して保育士の役割を理解する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・ 部分実習を行うことで保育と子どもについて実践的に学ぶ。 ・ 乳幼児との関わりを通して子ども理解を確かなものにする。 ・ 保育士の役割や専門性を知り、必要な知識や技術を習得する。			
[実習方法] ・ 保育所での生活に参加することにより、保育の一日の流れを全体的に理解し、乳幼児の生活や遊びの観察、保育士の保育業務の観察を通して保育所保育の在り方を学ぶ。 [実習段階の具体的な内容] ① 見学・観察実習 保育の実際の観察を行う。一日の生活の流れ、生活内容の概要、対象児のおおまかな行動と展開、それにともなう保育士の対応を把握する。 ② 参加実習 担当保育士の指示に従い、保育士の助手として参加する。対象児と共に遊び生活することで興味や関心、感情の動きを感じ、保育士の援助を学ぶ。 ③ 責任実習(部分実習) 生活面の一部、あるいは遊びの一部など一日の流れの部分において、事前に指導案を作成し主体的に保育を実践する。 [実習の課題] ・ 3 歳未満児と幼児の生活のそれぞれを理解する。 ・ 日課に沿って保育士の活動(環境・子どもへの対応など)を多面的に理解する。 ・ 自ら準備した課題を保育の場で実践する。 ・ 保育士を志すものとして自覚を高める。			
[使用テキスト・参考文献] ・ 実習の手引き ・ 保育所施設実習ハンドブック(ミネルヴァ書房)			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、実習評価の成績により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			